



がん患者のための多職種チームケアと
地域医療連携を推進するプロジェクト

阪神緩和薬物療法ネットワーク
第10回 学術講演会
Hanshin Palliative Pharmacotherapy Network

がん患者さんのためのチーム医療と 地域連携の推進に向けた取り組み

帝京大学 医学部内科学講座 腫瘍内科

渡邊 清高

2022年6月7日
市立芦屋病院&ウェビナー ハイブリッド

阪神緩和薬物療法ネットワーク COI 開示

発表者名：渡邊清高

発表に関連し、
開示すべきCOI関係にある企業等は以下の通りです。

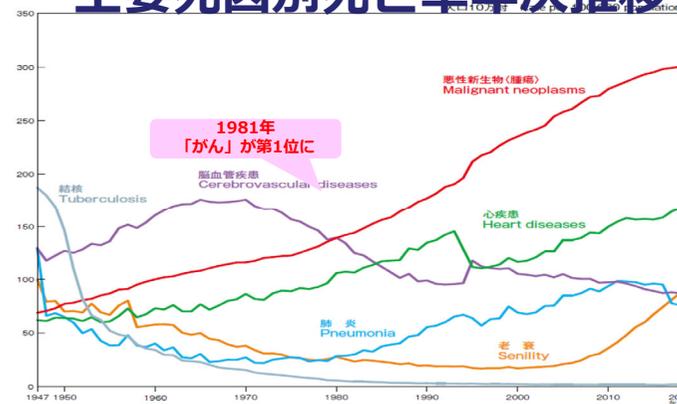
ファイザー株式会社
(プロジェクト助成)

がん患者さんのためのチーム医療と 地域連携の推進に向けた取り組み

本日の研修会の目標

- # 1. 患者支援のための**多職種チーム医療の意義**を説明できる
- # 2. **地域連携に推進に向けた取り組み**を概説できる
- # 3. 専門性・関心に応じた**関連職種**の役割を提案できる

主要死因別死亡率年次推移

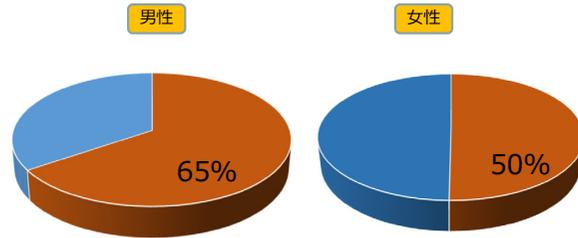


年間**37万人**の方ががんで亡くなり、
1年間で**98万人**もの方が新たにがんと診断されています。

(死亡 2019年データ、罹患 2018年データ)

国立がん研究センターがん情報サービス

日本人の2人に1人ががんになる

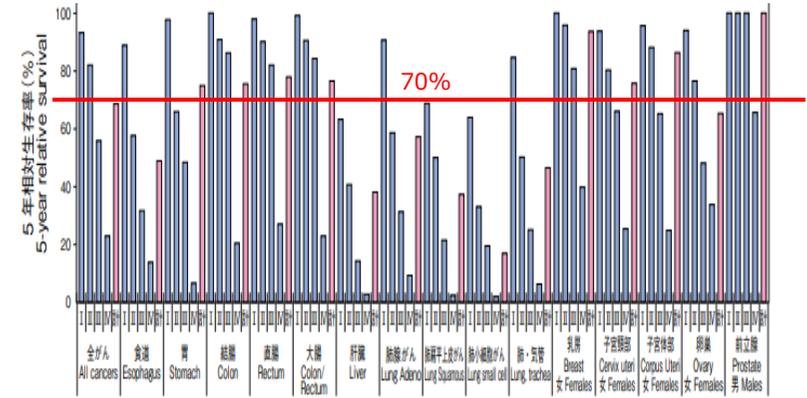


生涯でがん罹患する確率 (2018年)

国立がん研究センター
がん対策情報センターによる推計値

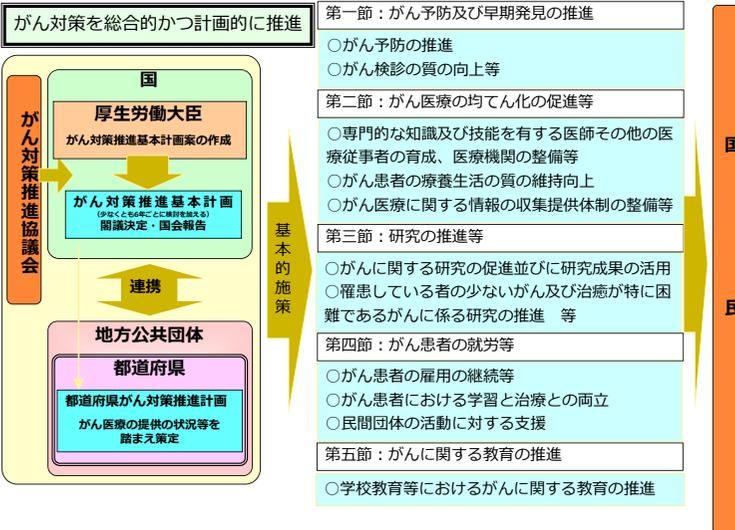
がん医療の進歩→ともに生きる社会へ

がんの5年生存率 (2010-2012 診断治療症例)
全国がんセンター協議会 (全がん協)

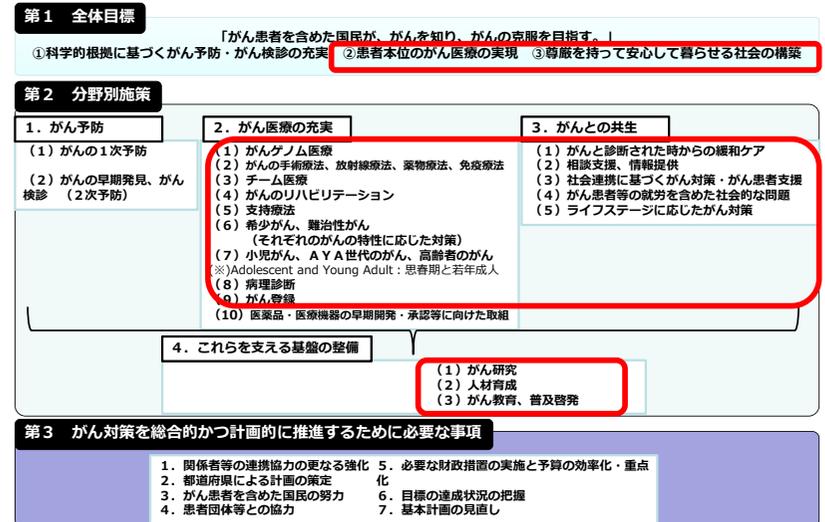


胃がん・大腸がん・乳がんは5年生存率が70%をこえている
がんの統計'21

がん対策基本法 (2007年4月施行、2016年12月改正・施行)



第3期がん対策推進基本計画 (概要) (2018年)



第3期 がん対策推進基本計画（2018年3月）

第1 全体目標

2 患者本位のがん医療の実現 3 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

第2 分野別施策と個別目標

2 患者本位のがん医療の実現

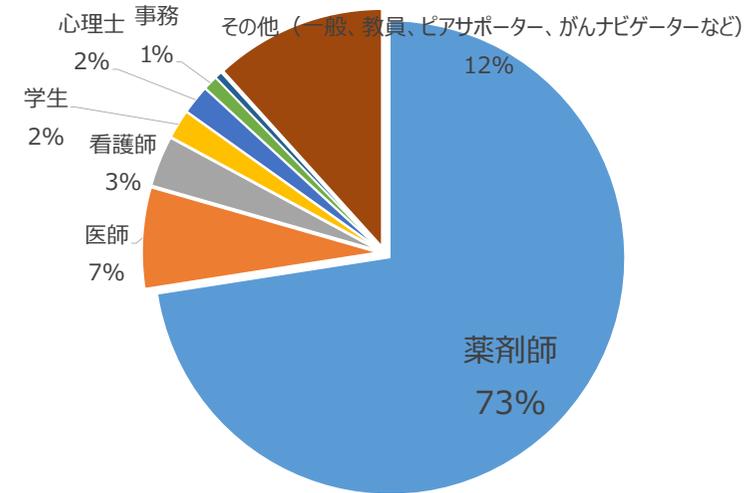
がんゲノム医療、手術療法・放射線療法・薬物療法および免疫療法、チーム医療、がんのリハビリテーション支持療法、希少がんおよび難治がん、小児がん・AYA世代・高齢者のがん対策、病理診断、がん登録

3 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

診断された時からの緩和ケア、相談支援および情報提供、社会連携に基づくがん対策・がん患者支援

「がんとの共生」に向け、がん患者が**住み慣れた地域社会**で生活をしていく中で、必要な支援を受けることができる環境整備を目指す。そのためには、関係者等が、**医療・福祉・介護・産業保健・就労支援分野と連携**し、効率的な医療・福祉サービスの提供や、就労支援等を行う**仕組みを構築**することが求められている。

事前の登録ありがとうございました（235名、6月6日時点）



ご参加の皆さまからのコメント（235名、6月6日時点）

- ・**地域連携の取り組みの実際**を参考にしたい
- ・**緩和医療**における地域連携
- ・**阪神地区の情報**をもっと知りたい
- ・現時点ではがん患者さんは来られませんが、これから**地域連携**が進み急に対応するときに焦らないように知識として身につけておきたい
- ・**医師や薬剤師**がどのように取り組んでいるのかを知りたい
- ・**在宅**での緩和ケア
- ・**家族当事者**としてどう参画できるかに関心がある
- ・**介護**に関する問題点

がん患者さんのためのチーム医療と地域連携の推進に向けた取り組み

1. がん医療の現状と多職種チームケア

2. 患者さんを支える地域連携とは

3. 地域に広がるネットワークづくりに向けて

「がん患者さんのQOL」を高めるには？

「質が高いがん医療」ってどんな医療？

がんを発見してくれる病院？
(例：がんによる死亡率が低い地域、発見率が高い病院)

血液一滴で診断してくれる？

最先端の治療をしてくれる？

待ち時間がなく、サービスのよいクリニック？



がんを治療してくれる病院がある地域？
(例：治療実績が豊富)

見逃しの発生率が低い検診センター？

プロセスとアウトカムの比較

	プロセス (例：薬剤指導の実施数)	アウトカム (例：有害事象の発生率)
調べられること	・プロセスが適切な方法で行われているか否か	・行った医療の結果（成果）
改善策との関係	・改善策と直結しやすい	・改善策と直結しにくい
患者・家族にとってのわかりやすさ	・理解しにくい	・理解しやすい ⇒患者や家族は「結果（アウトカム指標）」重視となりやすい

- 患者が受けたケアを反映
- 現場にとって公正で、受け入れられやすい
- 変化しやすい

- アウトカムを見るだけでは不完全
- 変化しにくい

「がん医療・ケアの質」を見える化する

患者・家族・支援者のニーズは
医療者のニーズは



改善・工夫
開発
創造

知識のアップデート
スキルの向上
コミュニケーション
チームアプローチ

アンケート・体験調査
患者報告アウトカム（PRO）など

がん予防分野の中間評価に向けた整理（案）

第74回がん対策推進協議会
令和2年10月16日
資料 3-1

3. がんとの共生

緩和ケア

現状・課題

- ◆ 患者の苦痛に対して、迅速かつ適切なケアが十分提供されていない。
- ◆ 緩和ケア研究会の受講動員、受講の利便性の改善、内容の充実が求められている。

全国のがん患者の患者体験調査 (n=5234)	
からだのつらさがあると答えた患者の割合	34.5%
気持ちのつらさがあると答えた患者の割合	28.3%

出典：平成27年患者体験調査

取り組むべき施策

- ◆ 苦痛のスクリーニングの診断時からの実施、緩和ケアの提供体制の充実
- ◆ 緩和ケア研究会の内容や実施方法の充実

相談支援・情報提供

現状・課題

- ◆ がん相談支援センターが十分に利用されていない。
- ◆ がんに関する情報が氾濫し、正しい情報取得が困難な場合がある。

取り組むべき施策

- ◆ 治療早期からのがん相談支援センターの利用促進、体制整備
- ◆ 科学的根拠に基づき情報提供、医療者のウェブサイト監視体制強化

社会連携に基づくがん対策・がん患者支援

現状・課題

- ◆ 拠点病院等と地域の医療機関等との連携、在宅医療を提供する施設におけるがん医療の質の向上を図る必要がある。

取り組むべき施策

- ◆ 多職種連携の推進、地域の施設間の調整役を担う者の養成

がん患者の就労支援・社会課題への対策

現状・課題

- ◆ 離職防止や再就職等の就労支援に、充実した支援が求められている。
- ◆ アビランサや生腫瘍能温存等の相談支援、情報提供する体制が構築されていない。

取り組むべき施策

- ◆ がん患者への「トライアングル型サポート体制」の構築
- ◆ アビランサ支援研究会の開催、生腫瘍能温存等に関する相談支援、情報提供のあり方の検討

ライフステージに応じたがん対策

現状・課題

- ◆ 小児・AYA世代において、多様なニーズが存在し、成人のがんとは異なる対策が必要とされている。
- ◆ 高齢者は、認知症を合併することが多いが、がん医療における意思決定等の基準は定められていない。

取り組むべき施策

- ◆ 小児・AYA世代のがん経験者の長期フォローアップ体制の整備
- ◆ 認知症等を合併したがん患者や、看取り期における高齢のがん患者の意思決定支援策の検討

3 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

1) 自分らしい日常生活を送ることができる

数値
70.5% [80.8%](※)
76.3%
成人：48.7% [57.6%](※) 小児：39.7%

2) 診断～治療開始前に病気や療養生活について相談できた

3) 家族の悩みや負担を相談できる支援が十分である

・患者体験調査では、自分らしい生活をおくることができていると感じる患者、相談できると感じる患者は増加している
 ・拠点病院のがん相談支援センター、地域統括相談支援センター、民間団体による相談窓口、がん情報サービスなどの活用を推進している

2018年度患者体験調査 2019年度小児患者体験調査

3 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

①-1) 緩和ケアの提供について

1) 心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できる

2) 身体的な苦痛を抱えている

3) 精神心理的な苦痛を抱えている

4) 身体的・精神心理的な苦痛により日常生活に支障を来している

数値
32.8%
44.6%
38.0%
30.8%

・心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できる患者は3割
 ・身体的な苦痛・精神心理的な苦痛を抱えている患者は4割
 ・苦痛のスクリーニング、緩和ケア研修会プログラムの改訂、緩和ケアセンターの設置（都道府県拠点病院・高度型拠点病院）を進めている
 ・遺族調査や拠点病院の実地調査のパイロット調査を進めている

2018年度患者体験調査

3 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

①-2) 緩和ケアの提供について

1) 療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えている

数値
40.4%(痛み) 47.2%(からだの苦痛)
42.3%

2) 療養生活の最終段階において、精神心理的な苦痛を抱えている

・療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えている患者（遺族調査）は4割

・終末期の痛みの原因についての調査、呼吸困難・せん妄等に関するアルゴリズムの開発に取り組んでいる
 ・緩和ケアに関する課題に対する必要な取り組みについて議論する

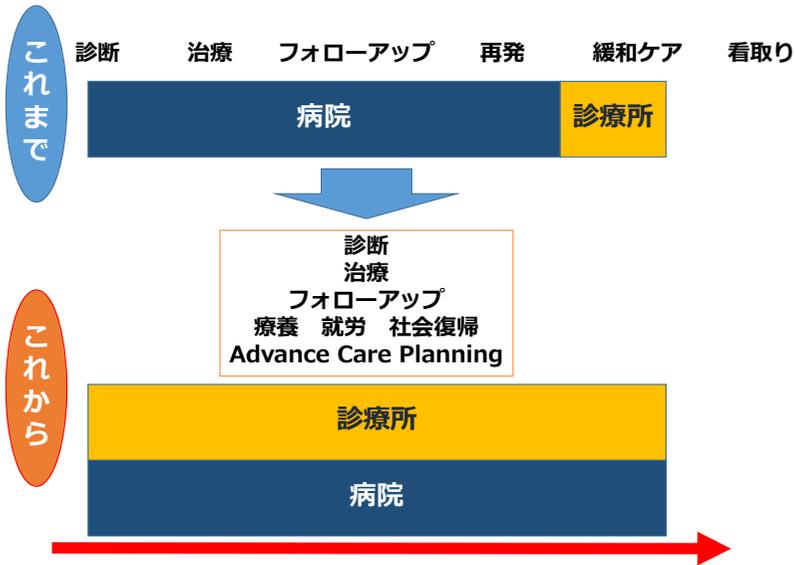
2018年度がん患者の療養生活の最終段階における実態把握事業

がん患者さんのためのチーム医療と地域連携の推進に向けた取り組み

1. がん医療の現状と多職種チームケア

2. 患者さんを支える地域連携とは

3. 地域に広がるネットワークづくりに向けて



病院内チーム：手術、放射線治療、抗がん剤治療などのがん治療の急速な発展により、高度な集学的治療の提供が可能になる一方で、複数の専門職による関与が不可欠になりました。



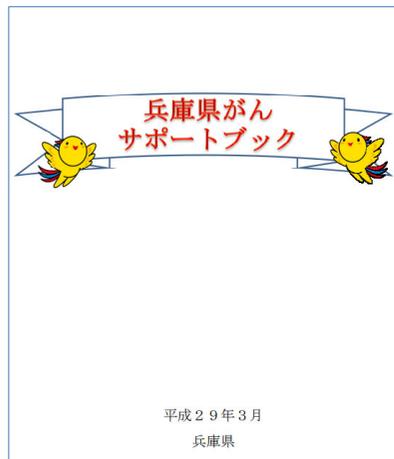
地域医療チーム：一方、高齢化社会によるがん患者の増加、支持療法の進歩、患者のQOL重視の視点などから、がん治療は入院から外来にシフトしつつあるため、病院外の専門職の関わりが必要になってきています。



地域包括ケアチーム：さらには、生活者としての患者・家族を支えて治療を行う、看取りを含めたケアを住み慣れた環境で実現するための、介護福祉関係者、行政、市民を含めたチームという考え方も広がりつつあります。

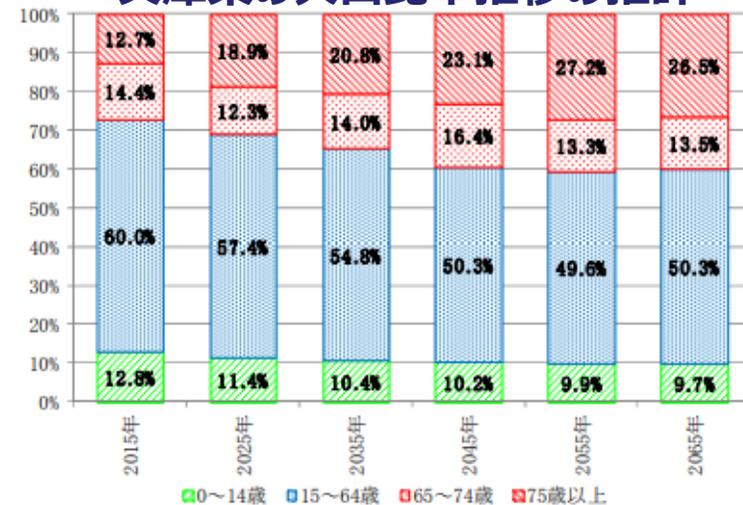
患者必携 がんになったら手にとるガイド
国立がん研究センター 2013

兵庫県 がんサポートブック (平成29年)



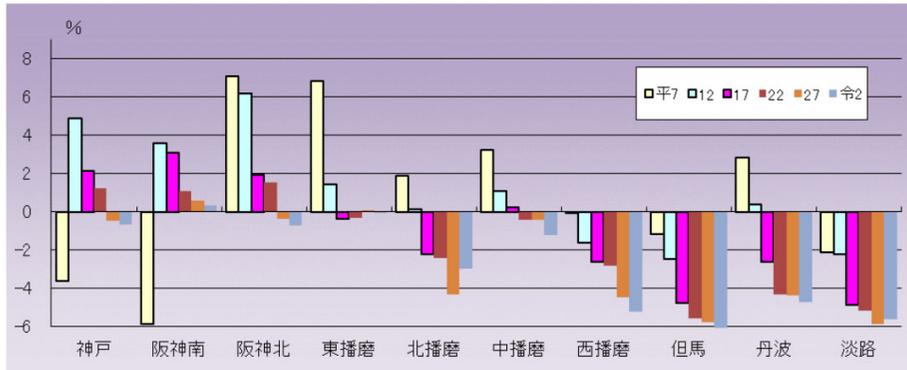
- ・「がん」といわれたときの備え
- ・がん診療連携拠点病院
- ・がんに関する相談窓口
- ・患者会・患者サロン
- ・ピア・サポーターによる支援
- ・セカンドオピニオン
- ・がん治療と仕事の両立
- ・小児・AYA世代のがん治療の支援
- ・緩和ケア
- ・自宅での療養生活を支援する制度
- ・医療費・生活費を軽減する制度
- ・県内各機関の問い合わせ先一覧
- ・インターネットで情報を探す

兵庫県の人口比率推移の推計



兵庫県将来推計人口 (2019年11月 兵庫県企画県民部)

兵庫県の地域別人口の推移（増減率、1995年～2020年）



令和2年 国勢調査結果速報

兵庫県がん対策推進計画

兵庫県がん対策推進計画
 （第5次ひょうご対がん戦略推進方策）

- ・ 計画の趣旨
- ・ 兵庫県の概況（疫学・検診・体制）
- ・ 理念と関係者の役割
- ・ 改定の視点
 - がん予防・早期発見
 - ライフステージに応じた対策
 - 適切な医療を受けられる環境整備
 - 療養生活の質の維持向上
 - がん患者の就労支援
 - がん教育の推進
 - 全国がん登録の活用

平成30年 3月

65歳 男性

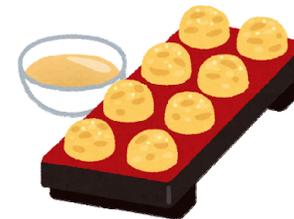
高血圧と高脂血症で治療中
 健康診断では血圧が高いこと
 と、塩分を控える、たばこをや
 めるよう言われている
 お好み焼き、漬物大好き

最近食欲がない
 何となくお腹が重い感じがある



検査で異常あり 市立芦屋病院へ
 胃がん 手術と抗がん剤治療

「大変だったけどこれで家に帰れる」
 「一服したいし、しょっぱいのもそろそろ」





- ・開腹手術による治療
- ・痛みのコントロールとリハビリ
立つ、歩く、運動する、体力をつける
- ・お薬の管理・再発予防
- ・後遺症の予防とケア
減塩食・卒煙（禁煙治療）
- ・ストレスコントロール
- ・退院後のリハビリへの移行



治療前

- ・病状・治療の確認・レジメンの選択
- ・事前のリスク評価
- ・適切な支持医療の提案

治療中

- ・服薬管理
- ・治療中の注意事項
- ・副作用のモニタリング



フォローアップ

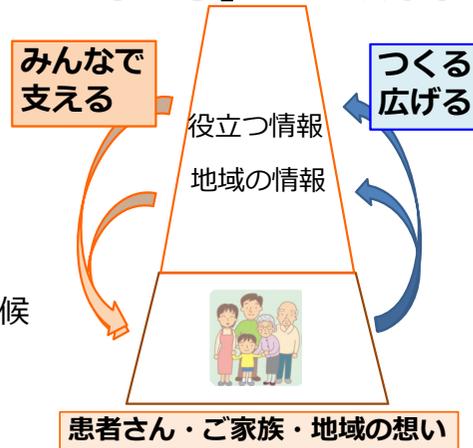
- ・後遺症の予防とケア
- ・在宅での服薬管理・家族支援
- ・生活面での相談
- ・心理面・精神面の支援

地域で支える、新しい医療のかたち

「情報をつくる」→「つながる」→「みんなで支える」

在宅医療
緩和ケア
地域の医療・療養資源
独自の社会支援制度
患者会・患者支援団体

歴史・風土・文化・気候
家族観・人生観



がん患者さんのためのチーム医療と地域連携の推進に向けた取り組み

1. がん医療の現状と多職種チームケア
2. 患者さんを支える地域連携とは
3. **地域に広がるネットワークづくりに向けて**

アドバンス・ケア・プランニングについて

賛成である **64%**

よく知っている **3%**

聞いたことはあるがよく知らない **19%**

知らない **75%**

平成29年度人生の最終段階における医療に関する意識調査報告書

人生の最終段階における医療について 家族等や医療介護関係者との話し合い

詳しく話し合っている **2%**

一応話し合っている **36%** (男性30%、女性45%)

話し合ったことがない理由

きっかけがない **56%**

必要性を感じていない **27%**

知識がない **22%**

話したくない **5%**

話し合うきっかけ

家族の病気や死、自分の病気、メディア、医療者

平成29年度人生の最終段階における医療に関する意識調査報告書

死が近い場合の医療・療養を考える ために得たいと情報

医療 **53%**

施設・サービス **51%**

意思の伝え方・残し方 **41%**

相談・サポート体制 **39%**

心身の状態の変化 **26%**

知りたくない **6%**

平成29年度人生の最終段階における医療に関する意識調査報告書

どこで最期を迎えたいかを考える際に、 重要だと思うこと

家族に負担にならない **73%**

体や心の苦痛なく過ごせる **57%**

経済的な負担が少ない **55%**

自分らしくいられる **46%**

家族との十分な時間を過ごせる **41%**

信頼できる医師・看護師・介護職員に

みてもらう **38%**

人間としての尊厳を保てる **34%**

平成29年度人生の最終段階における医療に関する意識調査報告書

患者さんご家族をつなぐ在宅療養ガイド

<https://plaza.umin.ac.jp/homecare/>

地域におけるがん患者の緩和ケアと療養支援情報普及と活用プロジェクト
がんの在宅療養



ご家族のための
がん患者さんとご家族をつなぐ
在宅療養ガイド
Home Care Guide
PDF版
公開
Html版は毎日更新中です
ぜひ読む

必要ところから読む

第1章 在宅での 療養を始める	第2章 「最期のとき」に 向き合うこと
第3章 人生の最期を ともに生きる	第4章 お別れの時期

● ● ■ がん医療フォーラム 仙台 2015



f がんの在宅療養

2015年公開
全文を無料で閲覧可能
全国の
がん診療連携拠点病院に
見本版を提供
2016年書籍化
2022年改訂プロジェクト



「がんの在宅療養」をテーマとしたフォーラムと研修会と成果発信



- ・対象と目的が明確
- ・関係者の参画と独立性担保
- ・作成プロセスと合意形成
- ・わかりやすさ、患者・当事者の視点
- ・利用者による研修会・説明会の試行

さまざまな連携：
がん拠点病院・県・患者団体
学会・企業・メディアなど
実行可能性を広げる：
標準化した情報提供・共有
患者・市民フォーラム
専門職向け研修会
成果物イメージ：
トピック・地域ごと提示
協働に向けた提案

<https://plaza.umin.ac.jp/homecare/>

在宅療養を支える家族向けの情報

内容についての意見

- ・患者本人とのコミュニケーションの取り方がわかる
- ・家族のケアのやり方、最期のときの様子がわかる
- ・気持ちが動転しているときに、大変役立つ内容
- ・心の準備ができる、気持ちの余裕を取り戻せる

届け方についての提案

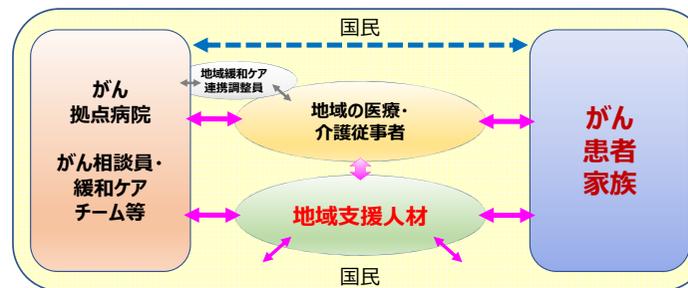
- ・手に取るタイミングが非常に重要。自他ともに受けとめる時期が良いのでは。
- ・病院、在宅医、訪問看護ステーション、薬局など、目に触れる機会を増やすことが大切。

<https://plaza.umin.ac.jp/homecare/>

地域における相談支援活性化人材の育成の例 がん医療ネットワークナビゲーター（日本癌治療学会）



がん相談員を支援する（外部の）人材を育成



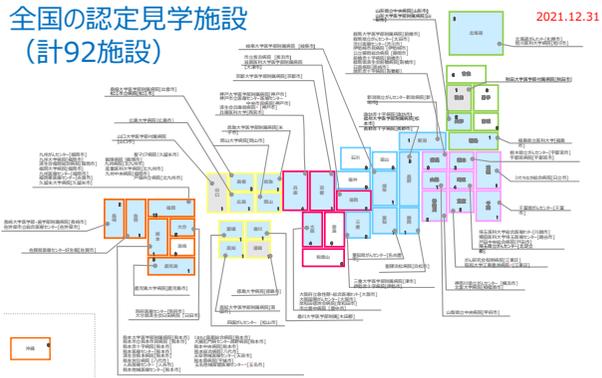
地域が一体となった
がんの相談支援・情報提供体制の
ための人材育成と体制の確立

強化が求められる連携

ナビゲーター養成状況

- シニアナビゲーター認定者 94名
- ナビゲーター認定者 647名

全国の認定見学施設 (計92施設)



20211231navi		20211231 Sr.navi	
都道府県	navi	都道府県	navi
北海道	33	京都府	3
青森県	8	大阪府	20
宮城県	1	兵庫県	5
秋田県	13	奈良県	3
山形県	4	鳥取県	1
福島県	7	岡山県	10
茨城県	3	広島県	11
栃木県	3	山口県	2
群馬県	16	徳島県	1
埼玉県	13	香川県	2
千葉県	8	愛媛県	8
東京都	48	高知県	3
神奈川県	14	福岡県	235
新潟県	5	佐賀県	7
石川県	1	長崎県	13
福井県	1	熊本県	50
岐阜県	5	大分県	30
静岡県	11	宮崎県	2
愛知県	10	鹿児島県	4
三重県	6	沖縄県	2
滋賀県	3		
合計	625		93



がん患者のための多職種チームケアと地域医療連携を推進するプロジェクト

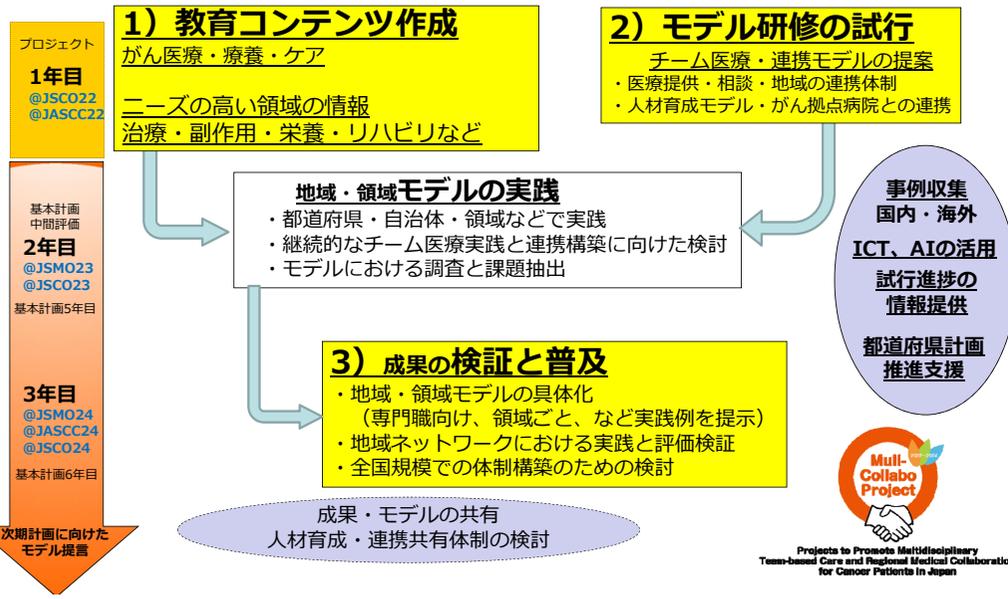
#まるコラボ

がん患者のための多職種チームケアと地域医療連携を推進するプロジェクト

地域におけるがん医療の環境を踏まえ、チーム医療を推進・向上させ、地域医療連携のもとで質の高い患者ケアを実現することを目的として教育研修プログラムを開発し提示します。

がん治療とケアを患者に確実に届けることで、より良いアウトカムにつなげることを目指します。

日本癌治療学会/ファイザー医学教育助成金
「がん患者のためのチーム医療・地域医療連携の推進に対する取り組み」



本日の研修会の目標

- 患者支援のための多職種チーム医療の意義を説明できる
- 地域連携に推進に向けた取り組みを概説できる
- 専門性・関心に応じた関連職種の役割を提案できる



Projects to Promote Multidisciplinary Team-based Care and Regional Medical Collaboration for Cancer Patients in Japan

“がん患者さんを支える
チームケアと地域連携”に向けて

地域で「考えよう」
「話し合おう」
「伝えよう」

どんなテーマ?

最新の治療
副作用管理
支持医療・・・

どのように?

講演会
グループワーク
症例検討会・・・

どこで?

市域
県内広域
コミュニティ・・・

終了後のアンケートに
ご協力ください

- ・職種、診療経験、専門分野など
- ・がん患者支援の現状
- ・本日のご感想、ご意見
- ・チーム医療と地域連携の推進に向けたご提案

ご清聴いただきありがとうございました